

## 南アルプス 大武川篠沢

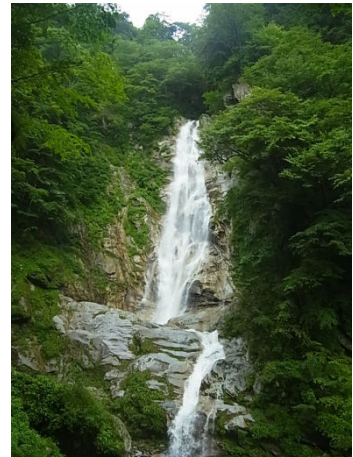
大田原

【日時】2012年7月14日(土)～15日(日)

【メンバー】L大田原、栗原、五十嵐

個人的な話だが、奇跡的に三連休を取得した。当初はガンガラシバナへ行く予定だったが、前線の接近中にスラブへ出かける勇気もなく、南ア北部に転進先を求めた。篠沢はアイスクライミングでは知られているようだが、沢登りの記録は少ない。しかし実際に遡行してみると、巻きは踏まれているようであったので、意外と人が入っているような印象を受けた沢だった。

14日朝、白州道の駅で待ち合わせ。2台で一旦下山予定の横手駒ヶ岳神社へ向かい、1台に乗り換えて大武川の桑木沢林道へ。ゲート前に1台分の駐車スペースがあるのでここに停める。曇天の下、大汗かきながら林道終点を目指す。滝見物の遊歩道に入り、道は一回沢に下りるのが、みんなそこから遡行するつもりなどなく、安易に直接篠沢大滝下まで出る。大滝はさすがに立派であるが、登ることはまず考えられないので踏み跡のしっかりついた左の小尾根を登っていく。いつまでも尾根を登っているといつまでも巻き上げられそうなので、適当なところから落ち口方面へトラバースする。食い込むルンゼが急峻なので思いのほか巻き上がらざるを得ないが、最後は浅いルンゼを渡ってちょうど落ち口に出た。下を覗き込むと、高巻き開始地点がよく見えた。大滝の落ち口には出たものの、すぐ上の滝も登れず、左から巻き。前夜に少雨があったせいか、水量はやや多めか？ 笹濁りである。小滝をいくつか越えると左から利平沢が出合う。その後は巨岩が形成する滝が目立ち、高巻いたり岩の間から抜け出たりして越えていく。私がある小滝を右から登ろうとしたら、スタンスがごっそり崩れて落下、肘とお尻を強打してしまった。ここの



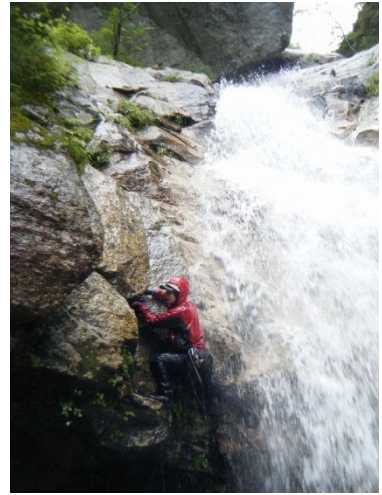
【篠沢大滝】



【岩盤の発達した溪相】

ところ1年に一回くらいこのようなスタンス崩落事件を起こしてしまう。体重の問題か、

岩を見る力の不足か。反省。沢を塞ぐ壁のような20m滝は右から巻き、左から高巻いた10m滝は一枚岩のトラバースが必要だったので短いロープで確保して越えた。そろそろテン場も検討したい頃、宮ノ沢出合い直下に15m滝が現れた。水が多めなせいか、私としては登れる気がしない。しかし兩岸は険しい岩壁になっており、巻くなら少し戻っての大高巻きになるだろう。するとしばらく滝を眺めていた栗原さん、「左から登れそう」とのこと。左は最初のワンポイントが被っており、滝の水流もろかぶりである。内心、栗原さんが登れても、ついて行けないよ〜と思いながらビレイ。栗原さんはサクッと登って灌木でピッチを切った。全員空身で荷上げすることにする。さて、次は私。栗原さんのムーブを参考に上がろうとする



が、水流を顔に受け、次のホールドを探せない。結局【怒涛のシャワークライム】五十嵐さんの肩をお借りし、やっとの思いでワンポイントを超えた。灌木からは念のためロープをつけたまま水流を渡り、右から滝上に出た。しばし進むと左岸に絶好の草地があり、ここをテン場とした。薪が芯まで濡れており、点けるのに苦労したが、「新・焚火先生」五十嵐さんの手により立派な焚火を楽しんだ。

翌朝は全員で寝坊。あまりのんびりせずに出発。小滝を越えていくと15mのスラブ滝登場。右から登れないかと思ったが、あまりに滑るので右から高巻く。巻きは絶妙なラインが踏まれている。2段になった30m滝は1段目のみ私が念のため空身でロープを引いて登る。行ってみると意外としっかりホールドがあった。2段目は左から小さく巻き気味にフリーで越えた。続いてはトイ状2段15m滝。五十嵐さんが水流を受けながら下部を突破。後続はお助け紐をもらう。上部は滑るスラブ状なので、左から巻き気味に越えた。これを過ぎるとゴーロ状となり、少し行くと前方に巨大な七丈大滝が現れた。眺めながら大休止。これを巻き越えても面白くなさそうなことは事前に知っていたので、左岸の支沢から登山道を目指す。適当に斜面を上がっていくと、縦横に獣道が走っている。それらを辿るとほとんど藪漕ぎすることなく登山道に飛び出した。



【シャワークライム part2】

【グレード】3級

【行程】7/14 桑木沢林道ゲート(7:50)～遊歩道 入口(8:30)～大滝下(9:05)～大滝上(10:35)～1750付近幕場(17:15)

7/15 幕場(7:25)～篠沢大滝下(9:30/10:10)～  
登山道(11:20)～横手駒ヶ岳神社(14:35)

【地図】長坂上条



【圧巻の七丈大滝】

